
7. 対応方針（案）

○検証対象ダムの総合的な評価

検証対象ダムの総合的な評価を以下に示す。

1. 洪水調節の目的について、目的別の総合評価を行った結果、最も有利な案は現行計画案（足羽川ダム案）である。
2. 足羽川ダムは、洪水調節のみを目的とする洪水調節専用（流水型）ダムであることから、目的別の総合評価結果を踏まえ、総合的な評価の結果とする。
3. これらの結果を踏まえると、総合的な評価の結果として、最も有利な案は現行計画案（足羽川ダム案）であると評価した。

○パブリックコメント、関係住民及び学識経験者を有する者からのご意見

パブリックコメント、関係住民及び学識経験を有する者からの意見聴取を行い、さまざまな観点から幅広いご意見を頂いた。これらのご意見を踏まえ、本報告書（素案）の修正等を行った。

○関係地方公共団体の長からのご意見

関係地方公共団体の長に対して意見聴取を行い、「継続」することが妥当であるとの意見をいただいた。

○事業の投資効果（費用対効果分析）

「治水経済調査マニュアル(案)（平成 17 年 4 月 国土交通省河川局）」に基づき、足羽川ダムの費用対効果分析を行った結果、全体事業における B/C は 1.3 で、残事業の B/C は 1.8 であることから、事業の投資効果を確認した。

○事業評価監視委員会からのご意見

近畿地方整備局事業評価監視委員会に対して意見聴取を行い、「事業評価監視委員会としては、足羽川ダム事業について対応方針（原案）のとおり「事業継続」でよいと判断される。」との意見をいただいた。

○対応方針（案）

「検証要領細目」に基づき、検証に係る検討を行った結果、足羽川ダム建設事業については「継続」することが妥当であると考えられる。